

卒業したK君へのメッセージ

～甥っ子と与論島で3年間高校に通わせた里親の感想から～

平成29年年3月1日、とうとう我が家の居候息子である海（かい）の卒業式の日がやってきた。思えば3年前妹から突然「海と与論高校に通わせようかな～」と電話がかかってきた。「そうしたら」って何も考えず簡単に返事をした。身構えることも、深く考えることもなく、私に男の子が育てられるかと悩むこともなく、本当に自然に受け入れた。

今思えば、これが現在高校3年生になる私の娘百合にドラえもんがやってきてくれたんだと思う。私と海と百合の3年間の生活はお互いにプラスになり、成長でき、そして宝物になった。

彼の勉強は高校の先生にまかせて、私はこの3年間で、与論を、そして我が家を、忘れられないものにしていこうと決めた。「楽しかった。千代大好きだよ！」って言わせるためにも。「おいしい」「うまっ」が聞きたくて、料理で頑張れのエールを送ろうと思った。「子育てと料理だけはいいかげんにすると必ず自分にかえってくる」と信じて、ごはんだけは心を込めて工夫して作った。3人のおいしい時間を共有するために。

朝、海と百合のゆらゆら風に吹かれている洗濯物に心癒され、子どもの洗濯物の数だけ嬉しくなった。ジュワーっと卵焼きを焼く音。トントンと味噌汁のネギを切る音、海の「行ってきー！！」、百合の「いってきま～す」は私の大好きな生活音。ありふれた日常生活の音だけど3人で奏でるハーモニーは私にしか聞けないとびっきりの島唄。

見上げれば360度の青い空、自然いっぱいの中で、バーベキュー、外鍋、外めし（庭でのごはん）をよくやった。円と縁、和と輪、3人で暮らした共有時間を一生忘れられない思い出にするために。「おかげで炭名人になれそう」と、3人で笑いながら一つの鍋でいろいろ食べた。「辛！熱！美味！」って言いながら……。そんな3人の生活もいよいよクライマックス。

島の食べ物で体を作り、島の愛で心を作り、心だけは病まないように育てたいと気合いを入れた。島にいたおかげでどんなに辛くてもどこに行ってもやっていける“力”を海に与えたい。もし、心折れたらいつだって「僕にはヨロンがある。」って思わせたい。海の帰ってこれる場所。次への始まるの場所。

夏休み「ただいま」と帰ってこれる場所。成人式を迎える場所もこのヨロンの我が家であればいいのにと期待しながら、実の親に3年後の“タスキ”はつないだ。

海の島立ちの日に泣かないために海が私に言った一言一言をノートに書き止めてみた。

頼みごとをするとすぐ「無理」。会話は常にオーダーのみ、「めし、シャツ、お茶、靴下、弁当」。「お～い千代、おれ人から褒められたよ、よく千代と住めるなあ～って」。「お～い千代、今日、俺と百合のシャツ間違えていたからずっと襟元を押さえての授業だったぜ」。「お～い千代一体お前は俺にどんなめしをくわせてきたんだ、0.01cmしか身長が伸びてない。」って怒ってきた身体測定の日。ご飯がおそくなるとすぐに「育児放棄」って叫ぶ。

海が島立ちしたその日から、「自分という存在が誰かを照らしつづける光になれるか、こどもたちの笑顔が続くように何ができるかを考えなくてはならない」という思いに駆られはじめた。あと一步の勇気が踏



み出せないでいる時、そっと背中を押してあげたい、ずっと見守っていきたい。自分にもっと力をつけて、さりげなくあったかく見守れる日溜まりのような、ずっと照らしつづけている太陽になりたい。

この3年の時間は私と娘百合にとって宝クジにあたるより大きな宝物になった。トートゥガナシ（ありがとう）しか海には言えない。私と百合のドラえもんがいなくなっても、「私たちはもう強くなったから大丈夫だよ」そういつて島立ちの日に見送りたい。そして、私たちに3年の幸福チケットをくれた海の父と母に心から「ありがとう」と言いたい。ミッシークトートゥガナシ！3年間私に海をあずけてくれてありがとう。

そしていつも応援してくれたY兄さん、T姉さんには感謝してもし尽くせない。3年間で共にしてくださりありがとうございました。高校の家庭科の先生が常に私たちを見守り3人を励ましてくれたことも思い出す。食事の大切さ、食を通して子どもは成長してあったかい心になれると私達3人に教えてくれました。私は、鹿児島からきた先生に「与論にはこんな島料理があって子供達に食べさせて、伝えてるよ」って、島の母の味づくりに夢中になった。ミシジマイ、ウンニイマイ、パパイヤ漬け、ウブシムッチャー、時にはテリーヌ、ミートローフ、ハッシュドビーフ、などなど。おかげで母親力もかなりあがったと思う。海が与論高校にきてくれたおかげで高校とも深く関わることができたし、言葉よりも行動することの大切さを学び成長できたと思う。

海をあずかって大変と思った日は1日もない、毎日が充実して楽しい時間だった、1人の存在がこんなにもありがたいって思ったことはこれまでなかった。3年という日々の中でいろんな人とのつながり、思いやりをたくさんもつことができた。この幸せをつなげた思いを、縁を、輪を、絆を、私達3人は一生忘れることはできないだろう。

最後にほんとうに大好きだった我が家の居候息子に感謝だけをつづって、積み重ね共有した3年間にピリオドを打ちます。ありがとう！いつ帰ってきてもウェルカムだからネ！海、あなたというヨロンの春夏秋冬が好きになった。季節をありがたく感じるようになった。風がやさしく思えた。空を見上げるようになれた。夜の月や星がきれいにみえた。ヨロンの海がとびっきり深くみえてきた。きっとあなたもそう思えたと思う。あなたはこの3年で立派なシマンチュになれたって事だヨ！だから島立ちのこの日を「いってらっしゃい！」娘と二人で笑顔で見送るヨ！



*注意 名前は、仮名もしくはアルファベットで表記してあります。